

令和5年度 学校関係者評価実施報告書

学校番号	35	学校名	静岡城北高等学校	記載者	吉永 卓志
------	----	-----	----------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
つながる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を承認し励ますボイスシャワーを実践する教員 90% ・学校生活で自分に自信を持てたことがあった生徒 80% ・クラスで友人と協力し合う関係を築けた生徒 95% ・自分の考えを説明し表現する力が身についた生徒 85% ・自分から先に挨拶できる生徒 90% ・ルールやマナーを守っている生徒 100% ・前年度より交通事故件数(21)、交通違反者数(210)が減少 ・前年度よりいじめ認知件数(0)、問題行動(1)が減少 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生徒の中に働きかけようとする姿や、つながろうとする姿を感じた。周年行事では、文化祭とは違う形で、学級の中でのつながりや結束力を感じた。 ・おおむね目標の達成はできていると思うが、交通事故や違反者についてはさらに減らせると良い。いじめや問題行動が減ったことについてはよい傾向である。 ・数字的にみれば未達の部分もあるが、全体的に高いレベルが確認できる。未達部分は次期の必達目標とするとよい。 ・ルール・マナー（挨拶含め）を守ることが自身にも他者にも重要である理由を再認識する必要があるのかもしれない。多様性が重視されるあまり人と異なることが過度に美化され中道的な視点がおろそかにされていることもあるように感じる。
みつける力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学力の強みと課題を把握している生徒 85% ・納得のいく類型、科目選択、進路選択ができた生徒 90% ・オープンキャンパス等に 	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・一年次からの進路指導の大切さを感じた。その一端としての探究の姿を見つけていきたい。探究学習そのものは進んでも、まだ別物感があるようだった。読書やグローバル科の本についての読書率の低さは残念であった。 ・目標数値に対してはC評価と思われる。オープンキャンパス等への参加は、1年生は先の目標に対して

	<p>参加した生徒 70%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間が、進路目標(志望学部)の具体化に役立ったと感じる生徒 80% ・探究活動を通して社会や地域の課題に関心を持った生徒 75% ・二か月に 1 冊以上の本を読んだ生徒 50% ・「グローバル科の本」を読んだグローバル科の生徒 70% 		<p>時間的な余裕もあり低くなる傾向は有る。総合的な探究については、全校的に数値は低めかと思うが、3年生は進路目標が有ると思うのもう少し高められるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が高すぎる(過去の実績に対し)所があり無理があるかもしれない。 ・生徒の興味関心、目標設定などに左右されるところがある。もっと「なりたい自分、ありたい姿」のイメージを持たせることで、取り組む生徒を一人ずつ増やしていくとよい。 ・目標値に到達できない中で特に、総合的な探求の時間と進路との連携が機能していない。またそれが読書量ともかかわっているのかもしれない。Web 上だけの探究ではなく、書物から得る知見とリンクすることによって、大学での学部学科の専門の学びへの導入になると考える。
<p>行動する力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間 1 年生:週 1000 分 2 年生:週 1300 分 ・国公立大学合格者数 60 人(県内 30 人)以上 ・1 部活動 1 ボランティア(地域・社会貢献活動) ・社会貢献活動(ボランティア活動)に参加した生徒 90% ・ブロック大会や全国大会へ出場する部活動がある ・撫子チャレンジを活用した生徒 20 人以上 ・各種コンクール等への自主的な参加、出品者 20 人以上 	<p>C C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を過ごした先輩の姿があり、モデルが見つけれにくいのかかもしれない。一人ひとりの生徒は前に進もう、ボランティアに向かおうとしているように感じた。様々な分野でのモデルとなるものを紹介することで、まだまだ行動はできる。 ・家庭学習時間の達成率が低い事が懸念である。部活などで多忙とは思いますが、もう少し上げたい。 ・達成できる目標に向けて行動した方がよいかもしれない。 ・「行動する力」の「行動」の定義が見えない中で評価するが、成果目標の範囲がこれでよいのか議論すべきだ。 ・校外(社会)とつながりを求め自ら行動することで視野が広がり学習のモチベーション向上にもつながると考える。(例えば、常葉の対話弁論大会やレシテーション大会など、他高校の英語力やその他の言語能力など身をもって知る、体感することにもなる。)
<p>考える力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを実践している教員 100% ・授業に探究的な問いを取り入れている教員 100% ・生徒が ICT 機器を活用す 	<p>A A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観をさせていただき、先生方の工夫が光っていた。共通テストに「情報」が入ることもあり、積極的に学ぶ生徒の姿を期待している。 ・主体的・対話的～については順調に数値が伸びているようでよい。ICT 活用はこれから先も必要不可欠なツールのため重要である。授業を通して考える力が深まったと感じる割合が目標数値を上回った

様式第5号

	<p>る場面を設けている教員 60%</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間で、友人と協働して課題の解決策を考えることができた生徒 90% 授業を通して考える力が深まったと感じる生徒 80% 			<p>ことは良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標 100%の場合は、例えば 95%を超えれば OK とするのはどうか。 結果的にはAに該当するが、何をもってその数値になったのか知りたい。成果目標に具体策を盛り込んで、本当に「考える力」を育む時間、コミュニケーションを作ったかが大切である。 先生方はご自身が受けてきた教育方法とは異なること、ご自身がお持ちの理念に沿わないことも要求され大変な努力をされていると拝察する。それでも工夫をされ対話的で深い学びの実践に取り組まれている先生方が着実に増え、それによって生徒たちにも良い影響を与えられていると考える。
英語力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 地球上の様々な問題が、自分の生活に関係していることを意識している生徒 80% 学んだことを生かし、地域社会の問題を解決したいと考える生徒 80% グローバル活動に参加した普通科の生徒 50人以上 卒業時、英検 2 級取得生徒 グローバル科 100%、普通科 20% 卒業時、CEFR B2 (英検準 1 級程度) 取得生徒 グローバル科 15% 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> グローバル科だけでなく、そこを窓口にした普通科の生徒の育成について本年度は向うことが多かった。グローバル科を育てることだけが主眼ではなく、貴重なグローバル科を生かす良い機会になっていた。ネイティブの先生や、日本人で堪能なゲストティーチャーとの授業や催しなどで、さらに育成したい内容である。 達成状況として全体的に今一步という感じである。特に英検関係についてはもう少し合格者の比率が上がると良い。 かなり達成できている。最終的にはAとなるのではないか。 城北高校の一番の強みとしたい。まだまだ物足りない。徹底的に伸ばしてほしい。語学力だけでなく、グローバルな考え方の育成と合わせて活躍できる生徒を育ててほしい。 世界の若者たちが、世界に向けて発信する環境問題等についてのコメントやアクションを共有することで、地球規模の問題を共に考えて実践することができるようにすると良い。
安心・安全な学校	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に対する言葉遣い、呼称、授業のUD化に配慮している教員 100% ケース会議等による組織的な支援で生徒の状況が改善 自己を大切にし、他者の 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒への言葉遣いや対応をかえていくのには、それなりの覚悟が必要であり、切替のタイミングも難しい。新年度からの変容を願っている。防災については、これからは生徒と共に考える項目かもしれない。一人の社会人としての生徒の視点や生徒のパワーを生かしたい。 基本的な学校生活において安心安全は重要な項目であり、ぜひ来年はAとしたいところである。自分

様式第5号

	<p>人権を尊重することができた生徒 90%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備の不具合に起因する事故、けが 0件 ・ヒヤリハット事例の共有 ・防災危機管理マニュアルの増補改訂 ・業務改善を実施した分掌・学年 100% ・専門家、保護者、地域人材の活用により負担が軽減したと感じる教員 50% ・ICT 機器活用による事務作業等の軽減 		<p>を大切にすることと人権を意識した教育についてはぜひ継続活動をお願いする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方も大変であるが頑張ってください。ヒヤリハット5件は要注意である。 ・幅広いテーマであり、難しい問題に取り組んでいる。外部人材の活用で教員の視野を広げることも必要ではないか。 ・本年は特に震災でスタートし、火災も例年になく多いように感じる。自然災害ではあるが、人の力で被害をより少なくすることもできると考える。地域防災等にも中高生の力が必要となるため、まずは安心。安全な学校の土台作りが大切だと考える。
--	---	--	--